「りゅうまの休日」

２月の連休、ちょいと仕事も絡めて北海道へ一人旅行をしてきた高野です。
札幌に宿を取り、アクセスの良いテイネ・スキー場だけで遊ぶつもりでした。ところが、りゅうま伝５３号で紹介した３０年来の友人Ｍ（札幌在住）が色々と意見してきます。
「せっかく北海道来たんだからさ～、もっと良いとこへ行けよ」そう言って、ニセコへ行けとつつくのです。
「軽く言うけどニセコって札幌から車で２時間はかかるやろ？」
「車は俺が出す」
「お前はスキーしねえだろ？」
「俺はお前が滑ってる間、ニセコの温泉に入ってるから大丈夫。遊び終わったら電話くれ」
相変わらずです。そういえばコイツ、３０年前も正月に私を呼んで下宿させ、自分は休みの途中から私をおいてハワイに旅行に出かけて行ったことがありました。確かあの時は Ｍの弟が運転してくれてニセコへ行ったな～等と妙なことを思い出します。

「ここがドンペリがおいてあるコンビニだよ、」とか「カレーでも５０００円するキッチンカーもあるからな注意しろよ」とか、Ｍの解説を聞きながらニセコ町内へ。

噂どおり高級なホテルやコンドミニアムが並んでいます。バブルの不良債権残る 2000 年頃、750 万で中古ペンションを買えと、Ｍが私にけしかけていた土地とは思えません。

ゲレンデ前で降ろされると大半は外国人。スキーインストラクターも外国人です。まるで外国のようです。リフトやゴンドラも見るからにお金がかかってます。フード付きリフトはシートヒーター装備の６人乗りで、しかも革張り！温かくて快適なリフトです。イタリアのピニンファリーナデザインだとか・・・（汗）
最高のゲレンデを５時間程楽しみましたが、その間、日本人だけでリフトに乗り合わせることは一度もありませんでした。

昼も２時すぎ、スキー場を出て、高級そうな蕎麦屋に入るも店内に並ぶ外国人の行列で挫折。結局その近くの人気のないうどん屋で１杯千円以上もするうどんを食べて札幌へ戻ったのでした。

夜はすすきので私が接待したのですが、わずか数席しかない鮨屋にも必ず外国人はいます。そして鮨屋の大将もカタコトではあるけれど、英語、中国語、韓国語での対応できるのだとか・・・。

北海道はいつ行っても素敵な街ですが、今回は複雑な感情が湧いた旅になりました。
日本の誇るリゾート地で働くのは日本人、遊んでいるのは外国人。砂場を取られた園児のような気分を味わった「りゅうまの休日」でした。
さて、今月も残りわずか、砂場を取り戻すために働きます！